

昼の部

『忍ぶ川』の上映 35mmフィルム 黒白スタンダード

三浦哲郎の芥川賞受賞作品を、社会派監督の熊井啓が執念で映画化したリリックな秀作。当初、主役に吉永小百合が候補にあがっていたが難産の末、栗原小巻になった。彼女はこの薄幸の志乃役を熱演しブレイク、代表作となる。特に主役交代のネックになった美しい初夜シーンが話題になった。その頃から栗原は「コマキスト」吉永が「サユリリスト」として人気を二分した。当時をご存じの年配の方、あなたはどちら派？

※映写機を客席に設置するため、場所によっては騒音が

気になる場合があります。あらかじめご了承ください。



文化庁 東京国立近代美術館フィルムセンター「優秀映画鑑賞推進事業」上映

夜の部

「パキさんという男」ゲストトーク+『修羅雪姫 怨み恋歌』の上映 ブルーレイ カラー

今夜のゲストトークの長田紀生と、敏八（パキさん）の2人は同じ映画界に入ったが、敏八は日活の助監督部、長田は東映の脚本部に属し接触する機会はなかった。1973年敏八42歳で長田32歳の時、東宝からオファーがかかり、この映画で初めてタッグを組むことになる。同じ大陸からの引揚者でしかも四日市出身であるという偶然を彼らは知っていたらどうか。地元が輩出した気鋭の映画作家の2人だが、キャラは全く違う。しかし、共通して言えることは、お互い強い反骨精神の持ち主であることだ。それは、2人の、いずれの作品にも通底している。敏八没して20年、トークで長田の口からどんな面白い話が飛び出してくるか期待しよう。

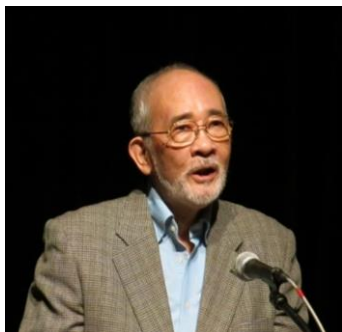


藤田敏八プロフィール

1932年朝鮮平壤生まれ。終戦後四日市馳出町に引き揚げる。50年四日市高校を卒業後、東大仏文科に入学。在学中に俳優座養成所に入所。55年日活助監督部に入社、蔵原性繕監督に師事。67年監督に昇進し、『非行少年陽の叫び』でデビュー。同作品で日本映画監督協会新人賞を受賞。71年には代表作となる『八月の濡れた砂』を発表。以降秋吉久美子の3部作を発表し、「青春映画の旗手」と呼ばれる。また80年には鈴木清順監督の『ツイゴイネルワイゼン』に役者として出演、話題になる。97年8月29日死去。享年65歳。

長田紀生プロフィール

1942年中国北京生まれ。47年四日市へ引き揚げて赤堀に住み、常磐小学校に学ぶ。旭丘高校を経て65年早稲田大学演劇科卒業。東映と専属脚本家契約を結ぶ。70年にフリーとなり、映画、テレビの脚本、監督など幅広く活躍。代表作の脚本に『軍旗はためく下に』『犬神家の一族』等がある。また、一昨年、自身が監督した未公開フィルム『ナンバーテンブルース』の作品が約40年ぶりに見つかって四日市の当ホールで上映。話題を呼ぶ。現在実家は三滝台にある。



『修羅雪姫怨み恋歌』前回からのあらすじ

父母の仇を討ち果たした雪（梶芽衣子）は、凶悪殺人犯として捕まり死刑判決を受ける。しかし、特警の長官のはからいで何故か釈放される。そこには国家権力としての企みがあった。雪の命を救う代わりに、アナーキスト（伊丹十三）が持っている国家機密の文章を取り戻すことだった。そんな命を受けて雪はアナーキストの家に女中として潜り込む…この映画は雪が亡き父母の墓参りをするシーンから始まる。タランティーノも絶賛したという梶の殺陣場面は見てのお楽しみ…